


 たて べ まさ き
建部 正稀
 犬山営業所 乗務員

今回は、犬山営業所の乗務員として働く建部正稀さんにインタビュー。仕事への意識を変えるきっかけとなった失敗談や、モチベーションとなっている趣味などを深掘りします。

——まず、ご入社のご経緯を教えてくださいいただけますか。

以前はコンビニエンスストアでアルバイトをして生活していたのですが、納品に来るトラックドライバーの方々と仲良くなり、運送業に興味を持ったのがこの仕事に就いたきっかけです。もともと運転が好きで、長時間の運転も好きですし、一人で行う仕事が性に合っていると感じたので、自分に合った職業ではないかと考えました。

その後、本格的に就職活動を行っていくなかで、南星キャリアックス株式会社との縁に恵まれて入社し、興味のあつた業務を担当できています。

——仕事をしていくなかで、大変だったことを教えてください。

はじめの頃は先輩に付き添ってもらいながら、ルートをたどって納品作業をしていましたが、入社から2〜3か月経ったあたりで単独業務となりました。そのときは、「上手くいくだろうか、時間内に帰ってこれるだろうか」と不安で仕方なかったことを覚えています。何とか業務を終えて営業所に戻ると、社員の皆さんが、「無事に帰ってこれたね」と優しく声をかけてくれて、とても安心しました。それからは徐々に仕事にも慣れて、それぞれの納品先を回るスピードも上がるように。ただ、半年ほど経ったときにしてしまった大きなミスは今でも忘れられません。

その日、いつも納品に行っているドラッグストアの納品口にある事を教えていく際に重みのある言葉を伝えられるようになるし、自分の意識も上がるので、悪い面ばかりではないと思えるようになりました。特に焦りは禁物なので、落ち着いて一つひとつの作業を遂行していきたいと考えています。

ミスを的確に分析し、きちんと自分の学びに変える強さを持つ建部さん。業務自体を楽しみながら、高い意識を胸に取り組むその姿勢は、営業所、そして会社にもポジティブな影響を与えているに違いありません。建部さんの躍進は、まだまだ始まったばかりです。



正直な話、その日から1か月はずっと落ち込んでいましたね。自分が運転していたのは2トントラックで、「ほかよりも小さいほう

——どのようにして、その失敗から立ち直ったのでしょうか。

バックで駐車しようとしていたところ、車体が接触して近くにある室外機を壊してしまったんです。先輩から業務を教わっていたときに、「ここは狭くて室外機が近いから気をつけてね」と言われていた場所で、いつも気にかけていたのに、少しの油断からミスを引き起こしてしまいました。当時、非常に落ち込んだ出来事です。

なのに」とか、「物損事故として警察のお世話になってしまった」など、考えれば考えるほど反省と後悔が膨らみました。けれど、職場の方たちが、その失敗を過度に責めるのではなく、笑い話に変えてくれたので、気が楽になりました。ほかに、「二度とあんな思いをするのはごめん」という気持ちが生まれたので、運転するときは今まで以上に慎重に、気をつけるようになりました。ミラーでの確認を徹底して、バックで入れなくても良い場合は避けるなど、とにかく事故を起こさないことを大切にしています。

——仕事をするにあたり、やりがいを感じる瞬間はありますか。

まず運転が好きなので、車を運転していること自体が楽しいですし、やりがいがあります。働いていくなかで特にやりがいを感じたのは、初めて一人で全ての納品を

——最後に、今後意識していきたいと考えている部分を教えてください。

この仕事を続ける以上、目指すべきはまず無事故だな、と思っています。最近、失敗自体は良いことではないものの、将来人に仕

